

月刊

語学のススメ新聞

2月号



バレンタインデイじゃなくて、パンケーキデイ?!?!

皆さん、こんにちは！ちょっと前に年が明けたと思ったらもう2月！！早いですね～！1月は大雪など天気もコロコロ変わり、体調管理がなかなか大変な月でしたね！みなさんはいかがお過ごしですか？

さて2月といえば、バレンタインデイが日本ではビッグイベントですよ！でも海外にはバレンタイン以外に盛り上がる日があるんです！皆さんご存知でしたか？それは、パンケーキデイです。今月はちょっとそんなパンケーキデイについて少しご紹介したいと思います！主にイギリスやアイルランド、オーストラリア、カナダなどカトリックの地域だったところで残るイベントの日です。パンケーキデイは「四旬節 (Lent)」と呼ばれるの断食の前日となっています。昔この日には、すべてのキリスト教徒が強制的告白を行い、四旬節の期間中禁止される栄養食品を食べることができる最後の機会をもらいました。そのときに、家に残っているすべての卵やバター、脂肪を使ってパンケーキを作ったことが由来しているそうです。そして、その祭りの愛称として今でもパンケーキデイと呼ばれるそうです。面白いですよね！これがイギリスではかなり盛り上がる日だそうで、パンケーキをフライパンでひっくり返しながらかけるレースがあります！このレースの由来はパンケーキデーにパンケーキを焼いていた主婦が約束の時間に遅れているのに気づき、慌ててそのフライパンを持ったまま町に出てしまったというおちゃめなエピソードが関係しているそうです。海外ならではのですね！ちなみに今年のパンケーキデイは2月9日です。BBCなどのニュースやHPをチェックするともしかししたら、パンケーキデイの面白い映像が見られるかもしれませんね！

さて、もう2月！エンジンかけて今月も突っ走りましょう！！

Chiko

第4回(前篇) 喜多川泰の親学塾 人との出会い 自分との出会い

1月24日、喜多川泰の第四回親学塾に行ってきました。この講座はもともと喜多川氏が代表を務める学習塾『聡明舎』(横浜市瀬谷区と大和市にある小中高生向けの進学塾)で掲げる「生きる力を育てる教育」を行うための保護者向けの講座でしたが、この講座の評判が高く学校の先生方や他の地域の保護者からも受講したいとの声を受け、2011年から一般向けに全国で開催されるようになった講座です。親学塾のコンセプトは「大人が楽しく学ぶ機会」。語学力UPにチャレンジする皆さんにもお役に立つと思われ講座内容の概略を小林がレポートして参ります。文中の「僕」は喜多川泰さん本人。斜体の文は小林のナレーションです。第4回目の親学塾は「人との出会い 自分との出会い」というテーマについての話でした。今回は前後篇の2回に分けてご案内いたします。

幸せな社会 日本は比較的幸せな社会だと僕は思います。例えば仕事と言う点を考えてみても、残業も多いですし休みも少ない。逆に多くの国で何で苦しむかと言うと、仕事がないからです。そう言う意味では日本は幸せな社会です。先進国の中でも仕事のない国はあります。お隣の韓国も大学を卒業しても仕事がない。そのため大学くらいは出ておかなければ…という事で受験競争が激化しています。しかし日本の場合、選ばなければ仕事はある社会。自分が必要とされる人間になりたいと思ってそういう行動を取っていれば、選ばなければ仕事はたくさんあります。僕は、子どもたちにも将来そうやってほしい。どんな場所で、どんな仕事に就いても、必要とされる人になれば、「あなたがいてくれるから、嬉しいです、助かります、必要です」といわれ、嬉しいを越えて幸せなんです。その為には、「必要とされる喜び幸せを感じながら、人生を生きる姿を見せる」のが今を生きる大人たちの役割なのではないかと思えます。その中でも「楽しんで生きる」ということはとても大切です。久しぶりに中学2年生を担当することになり、年明けの初めの授業でこんな話をしました。みんなと約束したいんだ。僕はこの場所を、みんなにとって一週間の中で一番楽しい場所、ここに来ただけで元気になる場所にしたいんだ。すると生徒たちは目を輝かせてウウツと頷きます。でも一つ約束してほしいことがある。ここに来る前に「何があっても楽しむ」と決めて来なさい。ここにきて僕が笑

わせてくれると思っちゃダメだよ。自分の責任で楽しむんだよ。すると座った瞬間から楽しむ気満々なんです。でも(大人も)同じように、今日1日を楽しむと決めて生きることで、楽しいことや楽しいpoint がたくさん見つかるのではないかと思います。そう決めないで生きていけば、あんまり楽しい1日ってないような気がしませんか？むしろ、楽しむと決めて生きるから楽しいことが見つかるのではないのでしょうか。大人も子どもも、目標を達成すれば、夢を掲げてそれを達成すれば幸せではないかもしれない。サッカー日本代表に入る(という夢を持つ)たくさんの子がいる。もしその11人に選ばれたら、夢を達成した瞬間は嬉しくてしょうがないかもしれない。プロ野球選手になりたいという夢を叶え、ドラフト1位で選ばれれば嬉しいかもしれない。でも同時にその瞬間、自分の実力に対して本当にやっていけるのだろうかという不安や緊張の方が大きくなっているかもしれない。何かを達成した事が人にとっての幸せではないかもしれない。僕たちは誰かに必要とされる瞬間に幸せを感じるのです。今日1日を自分の責任として楽しみ、「今日1日楽しかったな」と子ども達に見せることが、大きな影響を与

えるのではないのでしょうか。大人が何カ月もかかる仕事でそれを達成した瞬間にだけ「ニコッ」としていたらどうでしょう？僕は子ども達の前に立つ仕事をしています。「今日も楽しいな。働くっていいな。君と会えてうれしいな」と言う気持ちで1日1日を幸せに生きるのを見せることで、子どもたちにもどこかで感じるものがあるのではないかと。「こんな感じで先生仕事してたな…」と思いだしてくれるのではないかと。たまたま(聡明舎の)卒業生にあうと大変そうな仕事なのに、「仕事は楽しむもんですから」と逞しいことを言ってくれます。つまり、皆さんも僕も自分の責任において「楽しく、幸せに」生きることで、たくさんの人を幸せにしているかもしれないのです。それでもどうしても楽しめないという人は、「ハハハハハ」と笑えばいいんです。そんな1日にしていくことが僕たち大人の役割ではないのでしょうか。

約束 皆さんは約束を守って生きているんです。約束を守らなければいけない世の中になっています。どうしてもイヤというふうにとったら仕事はなくなります。お客さんもいなくなり、会社と交わした約束を守ってないですねって(言われて)別の人の仕事になってしまいます。社会は約束で成り立っていることを、僕ら大人は肌で感じています。そこでの約束を守らなければ、すぐに生きていけなくなることを知っています。先日僕のクラスの中2の生徒にこんなことを話しました。「君たちのお父さんお母さんは、誰かとの約束を守って生きているんだよ。そうでなければ仕事なんてできないし、生きていけないんだよ。昼間のパパはすごいんだよ」ところが家にいる時のお父さんはまったく違っているんですね…誰もスゴいなんて想像できません(笑)。でも説明すれば「約束を守るから仕事が成立するし次の仕事もある。そうやって信頼を作り信頼をベースに仕事成立し生きているし、家族を養い誰かの役に立っている」ということになります。ところが子どもたちは他人との約束を結構簡単に破ってしまう。だから親として不安になる。しかし多くの場合、心配する必要はないと思います。それは子どもたちも年月をかけて大人になっていくからです。でも大人は時間をかけて大人になったことを忘れてしまいます。自分が40年かけて身に付けたことを、今すぐで



喜多川泰、作家デビュー10周年記念作品！今からでも、自分の人生をもっと大事に生きなければ、そう思わせてくれる作品です。感謝！

きなさいと言ってしまふ。僕も親から「家に帰ったら靴を揃えなさい」と言われ、自然に他の人のも並べることができるようになったのは38歳くらいだったでしょうか。結構遅咲きです(笑)。僕には姉がいるんですが、子どもの頃姉のだけは揃えたくなかった。何か損した気になるんですよ。「自分が揃えたら姉ちゃんが揃えたみたいになっちゃうわない?」って思っていました(笑)それが38年という年月をかけて出来るようになった。自分の娘にも靴を揃えるように言うんですが、姉が妹の揃えないんです。「どうして(妹のを)揃えないの?」と聞くと「(膨れた仕草で)だ、だって…、あのこがやってないのが悪い」と答えるので、損得じゃないぞと言う話をするんです。親の方には、自分が38年かけて作ったチシキの蓄積を1回でやらないと嫌だという思いがある。でも僕が38年かけて出来たことを娘なら25年で出来ると思う。娘が奥さんになって家庭を持つようになって「ジブンのしか並べないでしょ!!」とはならないと思います(笑)。僕は部屋の掃除片づけが好きで、散らかっているものを片付けるのが家に帰ってからの日課なのですが、娘は気にしてません。僕もしっかりできるようになったのはそんなに早くなかったかもしれません。(こんな何気ない家族のやり取りですが)何より大事なのは記憶だと思います。僕たちは「自分の親ってこうだったよなあ」と言うのをベースにしています。「自分はこうやって育った」というのを下敷きにして子育てをしています。例えば親が家族のためを思って何かをやっているというのは、子どもたちが親になって思い出し、いつか気づくものではないでしょうか。今の段階では破ってしまう人との約束も、平気で破ると段々人間関係がギスギスしてくるから相対的に少なくなってくると思います。そして大人になる頃には「うちの親ってこうだったよなあ」というのを基準にして生きてくれる。だから僕たち大人(の生き方)が大事なんだと思います。

ところで約束にはもう一つあります。それは**自分との約束**。でも自分との約束は結構簡単に破ってしまいます。例えば冷蔵庫にあったモンブラン。「絶対に食べちゃダメ」って息子の名前が書いてある。それは制御できると思います。でもそれが自分のモンブランだったらどうしますか? ダイエット中だったとしても「まっ、後で走ればいいか」ってなっちゃいませんか? 大体人間は自分と交わした約束を簡単に破ります。これはですね、僕もそうでした。100%守れる人間はいないんじゃないでしょうか? それは**自分に対する過小評価と過大評価のバランスが悪い**からです。全ての人が本当はもっといける。もっとできるんです。もっと色々な人を幸せにできる。一方、過大評価しているのは、自分はこんなことができるんじゃないかと言う日々の約束事なんです。学習塾で小1~高3迄の生徒を見ていて、夏休みの計画表、5時半に起きるって書いてあるんです。計画表を作るだけでも朝4時までかかるのに、「よし、明日5時半に起きよう」って言うのは無理な話です。でも何度計画を立ててもそうするんです。塾での授業が終わった時「よ~し、帰ったらメッチャ勉強し~よお!!」って思っている。そしてそれを忘れて、次に来た時に落ち込む。「やるって決めたのに…」って。人が一番へこむ瞬間って自分との約束を破った瞬間なんです。これは子どもも大人も一緒。自分と交わした約束を破り続けることで**自信がなくなる**。それを、**自分に信頼を無くす**というんです。だから何でもいい。大きい小さいは関係ない。スゴイっちゃういことでも、自分とした約束を守り続ける。初めから自分との大きい約束は**すごく難しい**。たとえ靴を揃えるでもいい。自信というのは自分を信頼できるという思いから湧いてくるんです。毎日それを守り続けるだけでも、ものすごく自信になるんです。僕は読書習慣のない人たちに読書習慣を持ってもらいたいと思って本を書きはじめ、そして講演をしています。1日15分でいいから毎日読むと本が好きになります。でももっと大事なことは自分に自信がつくことです。そしてもう一つ良い事があります。データがあるとかではないけれど、自分との約束を守っている人は、自分が思ってもみない様な奇跡がたくさん起こる様な気がします。実際に僕には起こりました。自分以外の色々な人との約束はみんな苦もなくやってくるんです。だから自分との約束を守り続ければ、僕たちはきつともっと幸せになれるんじゃないかと思うんです。僕は人生は一回だけだと思って生きています。100回人生を生きられるなら、今回は72番目くらいの人生だからこんなもんでイヤとか、たまには流されるだけ流される人生も良いかな…と思うかもしれませんが、一回だけの人生であるならば、自分の持っている能力のBestの下だったらイヤだなと思いませんか? 本当はもっとすごいもの(自分の中に眠っている何か)を持つてるかも知れないんです、僕らは。だからそれを引き出すために自分と交わした約束を守り続けて生きて行きたいと思っています。自分の娘が出会う大人に、自分との約束を守りながら生きてるカッコイイ大人が近くにいてくれたらいいと思うんです。そういう大人が世の中に増えて行けば子どもたちの未来は**すごく**明るいような気がします。だからまずは自分からですね。

僕たちは子どもに何を残したらいいかを一生懸命考えます。こういうものを残してあげたら子どもは幸せになれるんじゃないかとか、こういうものを経験させてあげたら子どもは将来楽になるんじゃないかと、いろいろ考えるんです。考えるのは悪い事じゃないし、考えたものを出来る限り与えていくことは悪いことではないと思います。けれど、結果として子どもにとって一番の財産は何になるかと思ったら、親の生き様だと思います。自分の親はこうやって生きたんだというその経験・記憶が一番の財産となる。僕らが死んだ後も子ども達は生きて行かなきゃならない。7

僕らが何かしてあげられればいけど何もしであげられなくなる。その時に彼らの人生を支えるのは親の生き様だと思います。「うちの父ちゃん母ちゃんって、結構大変な時代に一日一日笑ってたなあ。何が楽しいかわかんないけどケラケラ笑ってたなあ」っていう様な記憶を残してあげれば、子どもたちは苦しい時笑うかもしれない。「一日一日を幸せにするしかないんだ」って気づくかもしれない。これは逆を考えてもそうですよね。子どもたちが親にできる親孝行とは何か? うちの娘も普段言うこと聞かないくせに、親孝行してくれる時があるんです。学校の宿泊旅行の時にお土産を買ってきてくれました。「あ…、あ…りがとう! どこに飾ろう? (部屋に)似合う? 龍の掛け軸? た、たま、持ってるよねー。じゃ、パパの部屋に飾っとくよ。嬉しいんですよ。有り難いんですよ。少ないお小遣いの中で考えたのがこれだったんですから。お小遣いの中の大体6割くらいを占めていると思うんです。有りがたい嬉しいと思うけれど、それ以上に嬉しい瞬間というのがあります。例えば学校生活の中で「あなたのお子さんがいたおかげで、こういうことができます」とか「こういうことに中心となってクラスをまとめてくれて、みんなからありがとうと言われてます」とか、そう言う事じゃないかと思えます。僕もそう言う経験があります。うちの娘が学校でやったことに関して、関係しているお母さんからこんなことを言われました。「実は〇〇ちゃんにはいつも助けてもらっているんです。うちの娘はすぐ引込み思案で、〇〇ちゃんに引張られて輪の中に入れてもらって、みんなと仲良くなることができました。有難うございました」って言われました。それ言われた時に、本当に、嬉しかったです。つまり子どもにとって一番の親孝行は、子どもたちが日々笑顔で誰かを喜ばせながら生きてる姿だと思うのです。考えてみたら同じなんです。親が子どもに**残せる一番の財産は、日々幸せに生きて誰かを喜ばせる姿を見せる事です。子どもにとって一番の親孝行は、日々笑顔で生きて誰かを喜ばせる姿を見せる事です。**これ以上お互いにとって嬉しい事はない。だから僕らはそういう生き方をする必要があると思うんです。親は親で、子どもは子どもで一日を楽しむ。そして自分の周りにいる人たちに喜んでもらえる人になろう。毎日誰かとの約束を守りながら、自分との約束を守りながら生きるということをお互いができたら、お互いにとって一番いい財産を与え合いながら生きていけるんじゃないか(もちろんこの事は親子だけに当てはまるものではない)。その為に大切なこと。それは、**一日区切りで生きる**という事ではないかと思えます。

それでは続きは次号で♪まとめ:小林義和

現在分詞と過去分詞 形容詞的用法 その1

現在分詞というのは動詞に **ing** がついた形です、ここでは動名詞、進行形 (**be** +動詞 **ing**) ではなく、状態等を表す形容詞として考えましょう。

例えば、うんざりさせる・退屈させる、と言う意味もある “**bore**” ですが、**boring** とすると、主語の物事/人がつまらない、となり

I am bored. 過去分詞にすると「私は退屈している (されている)」となります。

This movie is boring. 「この映画は退屈だ」考え方としては、

・現在分詞: 物事/人 (主語) が (人にとって) ~させる (～のような)

・過去分詞: 主語が (～に/で) ~させられる。

例文を見たほうがわかりやすいですね。

This music is depressing. 「この音楽は憂鬱だ。」

I'm depressed. 「落ち込んでいる」

She is amazing. 「彼女は凄い」

I was amazed. 「私は驚愕した」

The result of the test was disappointing.

「テストの結果は残念 (な物) だった」

We were disappointed. 「私達はがっかりした」

His speech was moving. 「彼のスピーチは感動的だった。」

I was deeply moved by her words. 「彼女の言葉に深く感動した」

知っておくと便利な現在分詞、過去分詞の表現が沢山ありますので、また次の機会に紹介したいと思います。 **Rie**